

アトリエ 琉游舎 だより 120号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/
琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

2021年12月15日発行

新年祝祷会

2022年1月1日元旦午前10時半より琉游舎にて

★今年から午前10時半より執り行います★

★近くて一番早い初詣 琉游舎の新年祝祷会★

★30分ほどの法要です 新年をお祝いいたしましょう★

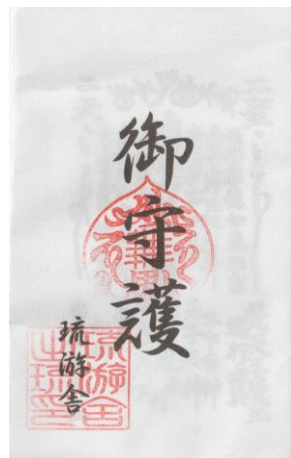
★新しい一年が豊かで実りある年になることを祈念しましょう★

★新年にお越しいただいた方に琉游舎の手作り御守護を差し上げます★

○ご守護（お守り）はこれを持っていれば願いが叶うとか、安心安全に毎日を送ることが出来るということを保証するものではありません。もちろん頼みごとの依り代でもありません。持っているだけでは唯の紙切れです。

○お守りは「家内安全でありますように」「志望校に受かりますように」「事故を起こしませんように」という自分の誓いを、ちゃんと一年間忘れられないようにと見守ってくれるもの。私たちの誓いの備忘録であり見届け役のようなものです。

○一年の計は元旦にあり、でも三日坊主も人の常。そんな私たちを一年間密やかに見守ってくれる守護袋になればよいなと思っています。琉游舎でお待ちしています。



写経会

1月9日(日)
13時半

般若心経・自我偈・観音偈の手本を用意しています。初めての方もすぐにできます。

読書会

12月28日は
お休みです

来年1月11日から「阿弥陀経」を読みます。浄土の姿を描いた、お経です。

12月16-30(木)

映画会

お休みします

12/23 木	13時半	ゼンダ城の虜 (101分)	翌日に迫った新王の戴冠式でにぎわう王国を訪れたルドルフ。釣りをしていると自分に瓜二つの男が現れる。その男はなんと新王ルドルフ5世だった。
12/30 木	映画会お休み		
1/6 木	13時半	生活の設計 (91分)	ゲーリー・クーパー主演。広告デザイナーのジルダはパリ行きの列車で画家のジョージと劇作家のトムと出会って意気投合し、一緒に生活することになる。
1/13 木	13時半	ドリアン・ 그레이の肖像 (110分)	オスカー・ワイルド監督。美青年ドリアン・グレイは自分の肖像画を眺めながら、永遠の若さを切望する。その願いは叶えられ、ドリアン自身は美少年のまま、肖像画に変化が現れる。
1/20 木	13時半	大平原 (135分)	開拓時代、米国の東西を結ぶ鉄道の建設が始まった。西海岸からはセントラル社、東からはライバルのユニオン社が工事を進めていたが、

コロナ禍のこの2年間、接待が仕事の重要な部分を占めるかつてのわたくしの職場でも、非常事態宣言期間中は、得意先の接待も社内会合（社内接待）も禁止されていたようです。役目柄退職前2年間の私は、夜の接待がほぼ毎日。土日は真夏真冬を除いて毎週ゴルフ接待。仕事でなければ出来なかったでしょう。会社のお金でご馳走を食べてゴルフができると羨ましがれる向きもありますが、高価な食事をたらふく食べても翌日にはメニューや味や交際費の金額は忘却の彼方。それよりも昨晚の成果の刈り取りと今晚の接待の段取りの確認に朝から部下とミーティングです。これではご馳走の味も内容も忘れてしまい、ゴルフの上達も望めませんね。でも接待はそれで構わないのです。それが仕事であるかぎり、接待は成果のためのひとつの手段です。コロナ禍でそのひとつを奪われたかつての同僚たちは、接待に代わる新たな武器を手に入れたのでしょうか。

グルメでも酒豪でもなくゴルフは何度やっても100を切る事が出来ない私にとり、接待は苦手な分野でした。しかし接待がビジネスを良い結果に導く有効な手段と考えられる立場になると、相手に応じて内容や場所や会話を変えることが重要であることを学び、それを実践することで成果が上がることを知りました。現場には現場の、管理職には管理職の、役員には役員、社長には社長の立場に応じて、店も料理も手土産も話題も変えていくことが肝要です。そのためには相手の趣味趣向はもちろん家族構成まで事前に知っておく必要があります。本人から直接聞くわけにはいきませんから、秘書や部下の方から事前取材して、情報を持ち寄って具体的な接待方法を決め、当日は段取りとみられないようごく自然な流れの中で計画を実践していきます。企業の目的は利益を上げることです。接待はそこに携わる人が智慧を搾り利益に結びつけるための手段の一つです。それは手段（方便）だけでなく強い意志（願い）を必要とするものなのです。そして接待は人をその歩むべき方向へ、自然とこだわりなく足を向けさせることのできる重要なスキルなのです。

法華経は私たちを「方便の教え」から「ありのまま（真実）の教え」に導くことがテーマとなっている経文です。「方便」とは「衆生を仏の真実の教えに導くための巧みな手段、仮の教え」という意味です。人それぞれの機根（衆生が教えを理解する能力や素養）に合わせて、段階を追って真実の教えに導く技術と呼ぶべきもので、この根底にあるものは「どんな方法をとってもすべての人を必ず悟りに導く」というお釈迦様の誓願です。「方便」は、お釈迦様の誓願を実践する弟子にとっては最も重要なスキルであり、やすらぎの処へと日々を生きることにそのものなのです。その方便のひとつに接待があります。「接待」は布施行のひとつで、修行僧に門前で湯茶を供することです。現代でも四国八十八箇所の巡礼では各所に接待所が設けられ、巡礼者に茶菓などを振る舞う行ないが続いています。これは「サービス」ではありません。サービスは有償の行為、対価を必要とするものです。接待する者は巡礼者を仏の化身と信じ、その功德により自分自身も仏への道を歩んでいるのだと確信を得ることのできる「行ない」です。ですから布施を受ける者はそれをサービスとして受け取ってはなりません。仏に成り代わって受け取っているのです。接待を施す者も施される者も、互いが布施のやり取りによって仏の道を歩んでいると言うありのままの姿があるだけです。「接待」は何も交換していません。そこにはただお釈迦様の願いを自分の願いとする「行ない」があるだけなのです。

意外に聞こえるかもしれませんが、私の会社員時代の営業と今の行ないは「願い」と言う一点に於いて全く同じ「行ない」です。会社員時代の目的（願い）は会社の利益のために働き（行ない）それが私や家族そして社会の中で豊かに楽しく心安らかに暮らすことになると信じて日々を送ることでした。そのためには持てる手段（方便）をもって願いの実現のために働き続けなければなりません。会社員時代は「接待行」ではなく「接待業」です。接待を生業のひとつとして私の利益と相手の利益と会社の利益と社会の利益がひとつと信じ願って「業」を行うことです。目的のために手段を選ばないならばその業は利己的な利益に終止し、その目的が社会全体の利益となることは決してないでしょう。つまりそれは社会の目的には叶っていない邪な目的なのです。目的が社会の願いであればそこへ導く手段は正しい手段です。ありのままの目的にはありのままの手段が自然と具わってくるものなのです。ですから5年前に「業」を「行」に変えた私の毎日は今も何も変わりません。いずれもありのままの今を意志（願い）と巧みな手段（方便）をもって目的（誓願）を実現するための日々です。それが社会の中の「業」からお釈迦様と伴に「行」することに変っただけなのです。

法華経の一節に「若説俗間経書 治世語言 資生業等 皆順正法」^{注1}とあります。「法華経を信じる者が、道徳についての書や政治の言葉や経済活動について説いたとしても、すべてそれらは正しい教え（正法）にかなった言葉である」という経文です。政治・経済・生活など、この世で行う営みのすべては仏道（正法）にかなったものなのです。これを「資生産業 皆順正法」と言います。殊更に世間や出世間と世界を隔てることも、会社員と僧侶と立場を分けて語る必要も全くありません。この世にある生きとし生けるもの皆が日々を「豊かに、楽しく、心安らかに」生きることが仏の願いです。その願いを自分の願いとして、それぞれの場所と立場と機根に応じてありのままに生きていくことが「業」と「行」であり、「皆順正法」なのです。

今年初収穫の大根で煮物とつまみと菜っばご飯を作りました。かつて接待で食した何ものにも代えがたい美味です。誰でも作ることのできる大根を何故に高価な食材に比して美味と感じるのか、[琉游舎：戸井 出琉・恭子](#) それは自然がこの大根で私を接待したからです。そして自然の接待行を有り[お問い合わせ：0287-53-7848 08033508152](#) 難しく頂くことが私の接待行なのです。この感謝の功德によって来年もまた [矢板市大槻2319-17コリーナ矢板C-850](#) 自然は美味しい大根を私に接待してくれることでしょう。 [注1：法華経法師功德品第19](#) [メール：toi10lizuru@outlook.jp](#)